総門（正面の門）

総門は、建長寺の正面の入り口にあたります。門の最上部の木の標識には、建長寺の山号である「巨福山」と書かれています。この書は、寺の第 10 代住職一山一寧（1247–1317）の作品をもとにしたものです。この門は元々、1783 年に京都の般舟三昧院に建てられたもので、1940 年に建長寺に移築されました。

総門から山門に至る参道には桜が並んでいます。春になると、アーチ状に伸びた桜の枝はピンクに咲き誇るトンネルのようになり、その下には色鮮やかなボタンが咲きます。総門で縁取られた桜と建造物の光景を楽しめます。